

長野県高等学校長会「高校再編について（中間まとめ）」に関わる意見募集について

高校教育課

1 意見募集の状況

(1) 実施期間 平成19年11月19日(月)～平成20年1月11日(金)

(2) 意見募集の件数 27件

(3) 意見の内容別件数（複数の内容を含む意見はそれぞれにカウント）

・学校規模に関すること	8件	・地域高校に関すること	4件
・進め方に関すること	24件	・少人数学級に関すること	6件
・専門学科に関すること	5件	・新しいシステムの学校、特別支援教育などに関すること	19件
・定時制・通信制に関すること	6件	・具体的な地域や高校に関すること	14件

2 主な意見の要旨（文末の括弧内の数字は、同種意見の件数）

(1) 学校規模に関することについて

- ・大規模校も小規模校も活かし、地域全体の教育の質の向上のため、学校規模の上限を6学級としてほしい。
- ・1学年6学級を標準とする根拠を示してほしい。
- ・小規模校はゆき届いた教育ができる。少子化を期に高校をもっと小規模化させたほうがよい。(6)

(2) 地域高校に関することについて

- ・高校生にとっても地域にとっても重要な意義をもつ地域高校の存続を要望する。それが財政的に困難な場合、市町村との「共立」という方途を探る価値がある。
- ・費用対効果論が先行した画一的な再編をせず、地域高校は地域と深い関わりがあったことを配慮してほしい。
- ・地域高校は、地域から見放されない限り存在価値がある。少人数で多様な子供を支える環境を整えてほしい。
- ・経済効率から地域の学校をなくせば、地域の過疎化が進み、環境問題にも影響を与える。

(3) 進め方に関することについて

- ・「高校改革プランの今後の進め方について」に沿った進め方を行うよう求める。(2)
- ・多くの意見や考え方を尊重し、時間をかけて練り上げられるよう願う。
- ・生徒、保護者、教職員、同窓会、自治体関係者、住民の声を十分に聞く機会を設けることが必要である。(8)
- ・中間まとめには議論の経過や根拠が示されていない。
- ・どのような方面からどのような意見を聞いたのか詳らかにしてほしい。
- ・意見を聞くためには、早期に投げかけ、検討時間をとるべきではないか。(2)
- ・長野高教組の作成した資料を検討材料とすることを要望する。
- ・教育は財政問題と切り離して考え、再編を実施する際は、地域からの要望の良い点や悪い点を明らかにして十分相談して決めていったほうがよい。
- ・地域や生徒が本当に求める学校という視点が抜け、学校数を減らすという再編だけになっている気がする。
- ・高校改革において、外国籍生徒への教育は喫緊の課題であり、高校再編の優先順位は低い。
- ・改革の根拠は、財政再建、少子化による活気の低下だけでは不十分。現在の問題点、原因、解決策、他の選択肢などを示し誰もが納得できるようにする必要がある。
- ・教育問題を徹底的に議論し、教育大改革の一つに統廃合を位置づけ、他の計画とあわせ順次実施すればよい。
- ・統廃合は、地域の改革、地域の活気の維持などに関してメリットがないと難しい。
- ・地域社会は高校生に期待しているが、地域で働くには高等な知識や論理より経験や実体験が一番であり、高校では社会人としての常識を身につけることが必要である。

- ・改革プランでは、統廃合対象の基準の見直し、統廃合根拠の提示、定時制と全日制の統廃合を別系列にすること、普通高校の総合学科転換、地域活性化策の検討、学校間の学力差問題の解決策などが考えられる。

(4) 少人数学級に関することについて

- ・教育予算の拡充と現行施設の維持により30人学級の実現を視野に入れた高校改革プランを構築してほしい。
- ・1学級の「適正規模」として35人学級、30人学級を積極的に提言してほしい。
- ・各校の特色や生徒の状況に応じ35人学級の先行実施を行うなど柔軟な対応を考えてほしい。(3)
- ・外国籍生徒の指導に対応するため、1学級の生徒数を減らし教師の数を増やしてほしい。

(5) 専門学科に関することについて

- ・専門学科は各地域と結びつき、地域の拠点校と見ることができる。拠点校と周辺の高校の連携は実際には困難であるため、各校の条件整備を目指すべきではないか。(3)
- ・下伊那は、商業科に多くの志願者がいるが、諏訪や上伊那と比較し工業科が多く商業科が少ない。飯田市内の統合校が「ものづくりの拠点校」となり、商業科募集が減ることに不安がある。
- ・下伊那の10年後や専門学科の適正配置を意識し、下伊那農業も含めた再編を想定するべきである。

(6) 新しいシステムの学校・特別支援教育などに関することについて

- ・総合学科は導入時の施設設備予算が必要だが、財政を考えれば今後の設置予定を云々するのは疑問である。
- ・総合学科は、多額の予算が必要な割に中退率が高いという問題があり、アメリカや他府県では破綻しているので、将来展望の持てない総合学科の新設のような計画は取りやめたほうがよい。
- ・総合学科では専門学科で可能であった資格取得ができなくなることが憂慮される。
- ・多部制・単位制高校の需要を研究し、新設にあたっては機械的に考えず移行期を含め環境を整えてほしい。
- ・広範囲から集まる多部制・単位制高校は、在来校の移行でなく交通の便のよい場所に新設すべき。
- ・東信地区の多部制・単位制の導入については、既に総合学科があることや定時制の存続の問題など、現場や東信地域の声を反映させて検討してほしい。
- ・定時制の生徒が増加している理由を調べ、多部制・単位制と定時制・通信制の適正配置を検討してほしい。
- ・中高一貫や全日制単位制は、検証が不十分で導入理由も示されない。表現が導入前提であるのは疑問である。
- ・地域高校などの活性化につながる連携型中高一貫は検討に値する。
- ・単位制高校は、新学習指導要領で重視されると予想される学力の共通性と矛盾する。
- ・「エンカレッジスクール」(東京都)には、手厚く指導するメリットはあるが、地域の「私たちの学校」という意識が失われかねない。生徒像を固定化せず多様な生徒が刺激し合うことで学校の活力は生まれる。
- ・学校現場では、「新たなシステム」は何を指すのか気になるという声がある。
- ・新たなタイプ、新たなシステムの学校の説明が不十分であり、本質的な教育議論をオープンにするべき。
- ・新しいシステムの導入は、良い点と問題点を検討し、職員やPTA、地域の賛同を得て実施してほしい。
- ・高校の魅力は、新しいタイプとすることではなく、人的・物的な支援と各校の課題解決のための議論を通して生まれ、その結果地元中学の入学者が増え、地域の信頼も高まる。
- ・高校の特別支援教育は急を要しており、もっと踏み込んだ具体的記述をしてほしい。
- ・特別支援教育については、具体的な方法も早急に検討し、専任の教職員の配置を願う。(2)
- ・特別支援教育コーディネーターは、現在の教員数や予算では機能しない学校もあるので、教員加配やスクールカウンセラー常駐の予算等も考慮してほしい。

(7) 定時制・通信制に関することについて

- ・様々な事情で実践の技術を学び地域の企業などへ貢献する上田千曲高校定時制機械科を存続させてほしい。
- ・身体障害者用設備が完備され、様々な人が集い、学び、ふれあえる長野西高校通信制の存続を切望する。

- ・ 勉学に身体的、経済的な負担が少なく、生涯学習の学び舎である長野西高校通信制の存続を切望する。
- ・ 定時制は、1学級20名を越えない規模で適正な学級運営が行えるが、4区の定時制の需要はその1学級規模では収まらない。広範囲から集まる多部制・単位制の設置を考えるのではなく現在の定時制を充実してほしい。
- ・ 定時制の統廃合を伴う多部制・単位制の設置は慎重に考え、既設校の様子を見て検討することが適切である。
- ・ 本来、就労者が学ぶための定時制の統廃合は、通学時間、経済面で学ぶ機会を奪うことになりかねない。

(8) 具体的な地域や高校に関することについて

- ・ 池田工業定時制を大町市内の高校へ移し、大町以北の生徒の受け入れ場所とすることを提案する。
- ・ 大北地域は地域的条件による学校規模に配慮した高校の配置が課題。高校の存在は地域の存続と深く関わり、生活条件を加味した視点もあるため、全県一律な取扱い是不公平感を産む。
- ・ 大町市内校を統合した新高校は、新しい場所に設立し、一人ひとりを大切に育てるため地域高校の環境を活かした少人数学級の導入を考えるのはどうか。
- ・ 12区の4校は、最大でも4学級規模だが、それぞれ特徴や役割があり再編を考える必然性はない。
- ・ 12区は、平成25年まで中学3年生の数がほとんど変わらないため、統合の必要はない。(2)
- ・ 12区は、地域の活性化の為に再編統合の必要はない。冬場の通学のことや職員、父母、地域の意見を聞き、皆が納得した上で結論を出してほしい。
- ・ 様々な教育成果や地域連携のある高遠高校を、6学級標準による画一的な方法で統廃合しないでほしい。
- ・ 例外的な扱いで進めていくこととなった飯田長姫と飯田工業の統合理由が説明されていない。
- ・ 南信州広域連合の意見は地域の総意ではない。同窓会、地域等の様々な思いがあるが、県教委は矢面に立ち取り組むべきである。
- ・ 南信は地理的に3つ地域が隔絶しており、区ごとに生徒数の推移を基礎として考えることが適切である。
- ・ 7区は平成22～31年まで2～5学級の学級増が必要になるので県立9校でよい。8区は既に新校がスタートし、9区は統合計画が予定されている。南信はこの状態でよい。
- ・ 富士見高校(普通科2学級募集、農業科1学級募集)は、生徒が増加する時期に普通科3～4学級募集とすることが考えられるため、統廃合対象ではない。
- ・ 4区は、募集定員が少ないため3～5学級分の生徒が流出する。小規模を理由とした再編統合ではなく適正な募集定員を策定してほしい。